

## 「地域医療」の研修期間延長を —地域医療再生の切り札—

余市医師会  
北海道社会事業協会余市病院

吉田 秀明

わが国の非都市部では地域医療の危機は明らかです。北海道でも数年前に、江別や北見でベッド数300床以上の地域基幹病院が、医師不足から診療の制限、とくに救急体制の大幅な縮小を余儀なくされたことは衝撃的な出来事でした。生活圏における医療の衰退は、つまりその地域の社会インフラの崩壊を意味するため、じつは地域社会そのものが危機に瀕していると認識されます。

さて、北海道における地方への医師派遣役についてですが、これまで誰も行きたがらないような病院や診療所に医師を派遣してきたのは、いわゆる大学医局でした。しかし、新医師臨床研修制度が施行されてからは、新卒の医師は市中病院に相当数が流れるようになり、大学の新入局者が激減したため、次々と地方から医師が引き揚げられる状況に陥っています。

いずれ医師数自体が充足して、地方にも医師がまわるようになって考えている方もおられるようですが、当院で研修された80名超の研修医のうち、総合医や家庭医を目指す方々のインタビューでも、勤務地は都市のイメージしかありませんでした。医師の勤務先を強制できる法はありませんので、今後も地方の医師不足が劇的に回復する見込みはありません。

そこで地域医療を再生させるために、ある程度強制力のある「医師臨床研修制度」の効果的な改定を提案します。医師臨床研修制度は「専門分野に関わらず基本的な診療能力を身につけること」を主眼として、平成16年度から開始され、5年後の平成21年に見直しがなされました。それを受けて、平成22年度から必修科目は、内科（6ヵ月以上）、救急（3ヵ月以上）、地域医療・保健（2年目に1ヵ月以上）の3つに簡略化され、自由度が大幅に増えたことによってプログラムの弾力化がなされました。

さきに述べたように、余市病院は地域医療の研修協力病院として、延べ80名以上の研修医を指導してきましたが、選択された（期間の決定権は研修基幹病院にあります）研修期間の多くは1ヵ月でした。残念ながら1ヵ月間では「やっと慣れた頃に終了」で、研修医・指導医双方にとって極めて不十分な結果をもたらすものでした。一方、2ヵ月間研修を行った医師が数名いましたが、2ヵ月目には習得する知識や技術、診療の内容などにおいて飛躍的な進歩が見られました。

たとえば、過疎地でも活躍できる消化器内科医を目指していた2年目研修医は、胃内視鏡検査を大病院（500床以上）の研修21ヵ月間で25件ほど経験してきましたが、余市での1ヵ月目に18件、単独でも行えるようになった2ヵ月目には58件を経験し、ある程度の自信と今後の具体的目標をもって戻って行きました。

また、2年目研修医に余市に来て初めて経験したことを列挙してもらくと、外来診療、入院適否の判断、主治医（検査・治療方針の決定など）、患者・家族への説明、お看取り、一人当直（バックアップあり）など、一人前の臨床医には欠かせないことがとても多いことに驚きました。超音波検査、中心静脈ルート確保など、日常臨床でほぼ必須と思われる手技も身に付いていないのが実情でした。

つまり、都会の大病院では、見学やカンファレンスは充実していますが、責任と緊張を伴った臨床の実務はほとんど体験されておらず、本研修制度の効果は現状では不十分といえます。大多数の研修医はそれに気づき「余市に半年や1年いても損はしない、かえって臨床の実力がつく」と、地域における研修の有用性を高く評価してくれました。

こういった地域での現場における経験から、地方で数ヵ月間研修をすることによって、研修医には本制度の主目的「基本的な診療能力を身につけること」が、今まで以上確実に達成されるというメリットが生じ、同時に地域医療の現場を助けることを通して、社会の期待に大きく応えることができると確信しています。

あらためて地域医療研修期間を延長した場合に見込まれる効果は、

①研修医の基本的な診療能力が大幅に向上する。

②2ヵ月目以降は大きな戦力になり、地域医療の一翼を担う。

③上記②により（地域医療を現実に支えている）指導医の負担がある程度軽減される。

④上記②+③によって、地域医療を実践している医療者のモチベーションの維持・向上が期待される。

⑤地域医療が重視されていることが医師全員に実感される。

などが挙げられると思います。

そこで具体的に、たとえば研修期間を6ヵ月とした場合、昨年度の新規研修医数=7,900名をもとに概算すると、運用開始2年目からは、通年3,900名強の医師が地域医療の現場に投入されることとなります。

この数が十分とは言えないかもしれませんが、医師不足であえぐ地方には大きな助けとなることは間違いありません。研修施設の選定などに検証と調整が必要ではありますが、わが国を支える臨床医を育てるために、研修制度の積極的な改定・運用を強く求めたいと思います。

表 研修医の感想・意見

<p>大規模病院での研修より有益と感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初診から入院の判断、治療内容、退院の判断まで一連の診療にかかわれる</li> <li>・一人当直（緊迫感がまったく違う）</li> <li>・重症者の救急搬送側になる</li> <li>・「説明と同意」を初めて経験</li> <li>・自分で判断することが多い</li> <li>・検査、処置に参加することが多い</li> <li>・科にかかわらず多様な症例を経験できる</li> <li>・単一の疾患ではなく、人を総合的に診ることができる</li> <li>・診断書を初めて作成</li> <li>・コメディカルとの敷居が低い</li> <li>・訪問診療（在宅VH、お看取りを含む）ができる</li> <li>・都市専門病院から治療を引き継いだ症例の様子が分かる</li> <li>・はじめて「臨床医」になったと実感できた</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

